

基本課題8 家庭生活と職業生活その他の社会における活動の両立の支援(課題17~19)

課題17 仕事と家庭・地域生活の両立支援と働き方の見直し

| No | 施策 | 事業名 | 担当課等 | 実施計画内容 | 実施状況 | 問題点、課題等 | 担当課 評価 | 市民窓口課所見 | H20年度の審議会における意見・評価 | |
|----|-----------------------|------------|-------|---|--|---------|-----------|---------|--------------------|---|
| 44 | 事業所における育児・介護休業制度の普及啓発 | 情報収集、調査、研究 | 商工観光課 | 新潟労働局の育児・介護休業制度の情報を提供するため、ホームページに掲載する。 | ホームページに新潟労働局の「育児・介護休業法制度」のページをリンクさせ情報提供した。 | | A | | | A |
| 45 | 労働時間短縮についての情報提供・啓発 | 情報収集、調査、研究 | | 新潟労働局の労働時間短縮についての情報を提供することができるように情報収集し、ホームページで提供する。 | 新潟労働局の労働時間短縮についてのポスター、チラシを掲示するとともに、新潟県司法書士会で実施する「全国一斉労働トラブル110番」の電話無料相談会開催を市広報誌・ホームページで情報提供した。 | | A | | | A |
| 46 | ファミリー・フレンドリー企業の普及啓発 | 情報収集、調査、研究 | | 仕事と育児・介護とを両立している企業の情報を収集し、ホームページに掲載する。 | ホームページから(財)21世紀職業財団にリンクすることで、「ファミリー・フレンドリー企業とは」と「表彰受賞企業」についての情報提供を行った。 | | A | | | A |

課題18 子育て支援の充実

| No | 施策 | 事業名 | 担当課等 | 実施計画内容 | 実施状況 | 問題点、課題等 | 担当課 評価 | 市民窓口課所見 | H20年度の審議会における意見・評価 | |
|----|----------------------|----------------|---------------------------|--|--|---|-----------|---------|--------------------|---|
| 47 | 子育て支援サービス及び保育サービスの充実 | 次世代育成支援行動計画の推進 | 子育て支援課 | 次世代育成支援行動計画については、三条市こども未来委員会を設置し、計画内容の進行管理を行う。 また、上記委員会において、今後の子育て支援サービスのあり方等を検討することで、子育て環境の充実に努める。 | 三条市こども未来委員会において、今後の計画策定の基礎となる今後の子育て支援の方向性を検討し、方向性を決定した。 また、2月から今後の計画策定に向けたニーズ調査を始めており、現在実施中である。 | | A | | | A |
| 48 | 市役所内の子育て事業における連携の強化 | 学校、公民館との連携 | 子育て支援課 生涯学習課 (各公民館) | 放課後子ども教室では学校との連携が不可欠であり、幼保小の連携も強化する必要があることから、情報を共有し、学校教育課、学校との連絡を密にする。 公民館でも家庭教育を実施していることから、情報を共有し、連携を図っていく。 | ・放課後子ども教室では、学校教育課との連携により新潟大学の学生の参加が得られた。 ・公民館実施の家庭教育事業を調査し、子育て支援課とのすみわけを検討した。 ・学校との連携により過密児童クラブの解消として、校内に一クラブを増設した。(つくし児童クラブ・月岡小学校内) | 20年度の組織機構の改正により、5課にわたって行われていた子育て支援関係事業が、子育て支援課に集約され、市役所内における連携の必要性が希薄となっているため、当該施策を削除とする。 | A | | | A |
| 49 | 子育て支援ネットワークづくりの支援 | 子育てポータルサイトの構築 | 子育て支援課 | 子育て支援関連のネットワークづくりについては、子育て支援団体を広く子育て中の保護者等に周知することや、自由に意見を交わすことのできる場の設置等が必要となることから、子育て関連のポータルサイトを構築し、子育て支援の情報を一元化するとともに、ネット上における活動の場を子育て支援団体に提供し、ネットワーク構築を支援する。 | 子育てポータルサイトについては、現在総合的な地域ポータルサイトを平成21年度のシステム構築予定しており、その中でのサイト構築を検討している。 | | C | | | C |

| | | | | | | | | | | |
|----|---------------------------------------|--------------------|--------|---|--|--|---|--|--|---|
| 50 | 施設ボランティア(保育ルームの設置時のヘルパー)及び子育てサポーターの養成 | 子育てサポーター養成講座の実施 | 子育て支援課 | 対象:子育て支援に関心がある方 時期:9月～10月(全6回) 内容: ・子育て中の保護者の居場所となる子育てサロン運営に協力いただく、子育てサポーターを養成する。 ・講義・実演・ワークショップ形式で取り組む。 20人 | 実施時期及び実施内容の変更有 時期:11月から12月(全6回) 内容:子育て支援に関する知識や技術を学び、ボランティア等様々な活動を行う人を養成する。 参加者:7人 | 繁忙期と思われる12月開催のためか参加者数が少なかったため、参加時期について検討したい。 | B | | | A |
| 51 | 子育てに関する学習機会の提供 | 子育て講座の充実 | 子育て支援課 | ・子育て支援センターで子育て講座を通して、子育てに関する知識・情報の提供及び講座の内容の充実を図る。 ・各子育て支援センター(5箇所)で定期的(各センター平均で5～6回程度)に開催する。 ・各回親子40名 | 育児講座について、ヨガや読み聞かせなど内容の多様化に努めており、保育所(園)によってバラつきはあるものの概ね30名程度の参加者を得た。 | | B | | | A |
| 51 | | 初めてのパパとママの子育て学級の実施 | 子育て支援課 | 対象:妊娠7か月の初妊婦と配偶者 時期:毎月1回 内容: ・ビデオ上映「お父さんへ赤ちゃんからのメッセージ」 ・妊娠中の母体の変化と胎児の成長 ・沐浴実習等 ・赤ちゃんが生まれてからの生活 ・子どもの発育と父親、母親の役割 ・家族の食事 ※夫婦の受講率(目標) 35% | ・ビデオ上映「お父さんへ赤ちゃんからのメッセージ」 ・妊娠中の母体の変化と胎児の成長 ・沐浴実習等 ・赤ちゃんが生まれてからの生活 ・子どもの発育と父親、母親の役割 ・家族の食事 受講率:34.8%(3月現在)。 | | A | | | A |

| | | | | | | | | | |
|----|----------------|--------------|---|---|--|--|---|--|------------------------------|
| 51 | 子育てに関する学習機会の提供 | 就学時子育て講座 | 対象:小学校に入学する児童の保護者(市内小学校24校) 時期:10月 内容:・来年小学校に入学する子どもさんを持つ保護者の方に最適と思われる、学校や家庭のあり方等について考える講演会を開催する。 | ・来年小学校に入学する子どもさんを持つ保護者の方に学校や家庭のあり方等について考える講演会を開催した。 参加者 896名(各市内小学校24校で実施) | | A | | | A |
| | | 子育て講座の実施 | 対象:小学生の保護者及び関心がある人 時期:12月 内容:母親ではなく、父親としてのふれあいやしつけ、コミュニケーションの取り方等についての講演会をPTAと連携し開催する。 | 実施時期と内容の変更有 時期:11月7日 参加者:教育関係者など98名参加 内容:PTA連合会の主催で教育関係者など対象に家庭教育講演会を実施。 | | A | | | A |
| | | 妊娠期子育て講座の実施 | 対象:妊娠3か月の妊婦とその配偶者 時期:6月・9月・12月・3月 内容:妊娠初期の親としての適切な対応、あり方等、基本的部分についての講演会を行う。 | 妊娠初期の親としての適切な対応、あり方等、基本的部分についての講演会を行った。 参加者 6月・22人(夫婦8組) 9月・34人(夫婦15組) 12月・30人(夫婦12組) 3月・22人(夫婦8組) | | A | | | A |
| | | しみん食育のつどいの実施 | 健康づくり課 | 対象:市民 時期:11月1日 内容:市民一人一人が自分の健康は自分で守るという考えから、食の大切さの啓発を図る講演会を開催する。 | 基調講演「和食の底力」講師 東京農業大学教授 小泉武夫氏 参加者 360人 「我が家自慢のおにぎりコンテスト」の最終審査・表彰式 | 我が家自慢のおにぎりコンテストでは、女性だけでなく、男性からの応募もあり、男女とも食育を考えるよい機会となったようだ。講演会は老若男女問わず様々な方から参加いただいた。来年度も参加しやすい内容を検討していきたい。 | B | | 男性の参加率向上について、より一層の努力をお願いします。 |

| | | | | | | | | | | |
|----|----------------|------------|--------------------------------------|--|--|--|---|--|--------------------------------------|---|
| 51 | 子育てに関する学習機会の提供 | 家庭教育講座等の実施 | 生涯学習課 (各公民館) | 対象:乳幼児から思春期の子ども の保護者 内容:家庭教育のあり方や子ども の向き合い方などを、地元の 保育所・小中学校やPTAと 連携して講座等を開催する。 講座数:19講座 | 延べ参加人数 1,707人 | 男性の参加者が 少なかった。男性 が参加しやすい日 程を考慮する必要 がある。しかし、学 校や保育所との共 催事業であるため にスケジュール調 整は難しい。 | B | | 男性の参加率向上 について、より一層 の努力をお願いします。 | A |
| 52 | 保育ルームの設置 | 保育ルームの設置 | 子育て支援 課 市民窓口課 生涯学習課 各公民館 | より多くの方が安心して各講 座、フォーラム等に参加して もらえるよう保育ルームを設置 する。 また、保育ルームの必要な講 座等には必ず設置するよう市 民窓口課で調査、点検を行 い、設置がなかった場合は指 導する。 | 各講座、フォーラム開催時 には、ほぼ、保育ルームの 設置をしている。 また、市民窓口課から各課 宛てに、保育ルームを設置 するよう、予算編成事務を 行う10月に文書で周知し た。 | 乳幼児の保護者 対象の講座では、 ほぼ全員が保育 ルームを希望され る。このような場 合、保育ルーム従 事者の確保が難し いため、講座の定 員を増やすことが できない。保育 ルーム従事者の育 成等増加を図る必 要がある。 | A | 子育て中の市 民も参加できる 環境作りが必要 であるため、 講演会や講座 開催時には設 置するよう関係 課に指導する。 | A | |

課題19 家庭生活における男女共同参画の促進

| No | 施策 | 事業名 | 担当課等 | 実施計画内容 | 実施状況 | 問題点、課題等 | 担当課 評価 | 市民窓口課所見 | H20年度の審議会における意見・評価 | |
|----|---------------------|---------------------------|-------------|---|---|--|-----------|---------|--------------------|---|
| 53 | 男女共同参画意識を高める家庭教育の推進 | 地域虐待対応研修会 | 子育て支援課 | 対象:市民とネットワーク関係者 時期:11月29日 内容:子どもの虐待に対する理解を深め、予防・進行防止・再発防止を目指す在宅養育支援について講演を行う。 | 講演:「みんなで守ろう、子どもの笑顔」 講師:越谷心理支援センター長 秋山 邦久 氏 参加人数: 124人 | 講演のテーマに「こどもの虐待」について初めて公表して実施した。一般市民からの参加も多く、興味関心の高さがうかがえた。今後も子どもの虐待予防の視点から、講演会や参加型の研修会を企画していきたい。 | A | | | A |
| | | 初めてのパパとママの子育て学級の実施 | 子育て支援課 | 施策No51に同じ | 施策No51に同じ | | A | | | A |
| | | 家庭教育講座(乳幼児期の子どもの保護者対象)の実施 | 生涯学習課(各公民館) | 施策No51に同じ | 施策No51に同じ | | B | | | A |
| | | 家庭教育講座(児童期の子どもの保護者対象)の実施 | | 施策No51に同じ | 施策No51に同じ | | | | | |
| | | 家庭教育講座(思春期の子どもの保護者対象)の実施 | | 施策No51に同じ | 施策No51に同じ | | | | | |
| | | 一日家庭学級の実施 | | 施策No51に同じ | 施策No51に同じ | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|----|---------------------------------------|--------------------|-------------|--|--|---|---|---|--|---|---|
| 54 | 男性の家事、子育て、介護等の学習機会の提供 重 | 初めてのパパとママの子育て学級の実施 | 子育て支援課 | 施策No51に同じ | 施策No51に同じ | | A | | | A | |
| | | 認知症予防啓発教室の実施 | 高齢介護課 | 対象:地域住民、認知症高齢者の介護者、家族 時期:通年 内容:市内10ヶ所の在宅介護支援センターに委託し、地域住民に向けて認知症予防についての知識の普及、認知症高齢者に対する接し方や介護方法等について指導を行う。特に男性の参加について働きかける。 560名(130名男性参加目標) | 市内10か所の在宅介護支援センターに委託し、上記内容を実施中。 3月末参加者 640人 うち男性 154人 実施回数 29回 | | A | | | A | |
| | | 男の料理教室の実施 | 健康づくり課 | 対象:市内在住の男性 時期:6月から11月 内容:基本的な食事づくりを教えることで、地域の食生活改善だけでなく、料理は女性という固定観念を捨て、男性の自立を促し、女性の社会進出を勧めることができるように支援する。 ・一中:3回(各30人) ・三中:1回(10人) ※一中地区、三中地区の食生活改善推進委員が主催する事業 | 三中食推: 6月12日(木)体育文化センター 参加者10人 一中食推: 9月13日(土)福祉センター 参加者9人 10月25日(土)福祉センター 参加者10人 11月15日(土)福祉センター 参加者7人 | 参加者が毎年楽しみにしている教室。料理を教える食生活改善推進委員もいきいきと取り組んでいる。地域の方にもっと参加してもらえるように支援していきたい。 | | B | | | B |
| | | 男の料理入門教室の実施 | 生涯学習課(5公民館) | 対象:市内在住の男性 内容:男性も家庭の中で、楽しみながら家事等に参加できるように家庭料理を学ぶ。 講座数:5講座 | 下田、井栗、本成寺、大崎、大島の5公民館でそれぞれ実施した。 講座回数延べ 36回 申込者 60人 延べ 370人の参加を得た。 | アンケート結果で、家庭で料理を作ろうと思った方がほとんどだったので、引き続き継続したい。募集の掲載では、男女共同参画という表現は、どこにも掲載しなかったため、表記して募集したい。 | | A | | | A |